

高校生が情報を得るときの新聞の存在について

武生高等学校

要旨

この研究では、武生高校の全校生徒、先生方にアンケートを実施し、高校生が情報を得るときの新聞の存在について調査した。新聞の存在はネットニュースやテレビ等により薄れていると考えられる。

1 はじめに

1.1 動機

私の家は、新聞をとっていて、常に新聞が机に置いてある。わたしは高校受験の時に、対策として読んでいたが、最近は読まなくなっていた。そこで、私と同じ高校生は新聞を読んでいるのか、私みたいに読まない人に共通点はあるのか、と疑問に思い、調査することにした。

1.2 新聞について

新聞は、政治、経済、社会、文化などあらゆる分野で記者が取材を通じて得た情報を分析、整理し、多様な論評なども加えながら一つのパッケージにして安定的に読者に提供している。そのため、私達は、総合的な知識や情報を読み解く力を身に付けることができ、偏りなく情報を知ることができる。新聞の強みは「取材力」である。実際に取材をして記事を作るため、信頼できる情報のひとつとなっている。

1.3 仮説

現在では、インターネットが普及し、スマホなどで簡単に情報を得ることができるため、家庭で新聞を購読する習慣が失われつつあり、新聞の発行部数は減少傾向にある。このことから、私は「高校生が情報を得るときに、新聞の存在は薄れつつある」と予想した。

2 検証方法

2.1 調査対象

武生高校の全校生徒、先生方に任意回答で情報に関するアンケートを実施した。うち得られた回答数は196名（1年生66名、2年生49名、3年生47名、先生32名）。

2.2 アンケート内容

以下は、実際に行ったアンケートの質問と選択肢である。この結果をもとに考察を行う。

①あなたは何でニュースを見ますか？（複数回答可）

- ・テレビ
- ・新聞
- ・スマホ（ネットニュースなど）
- ・ニュースを見ない

・その他

②どのくらいの頻度でニュースを見ますか？

- ・毎日
- ・週4日ぐらい
- ・週2日ぐらい
- ・ほとんど見ない

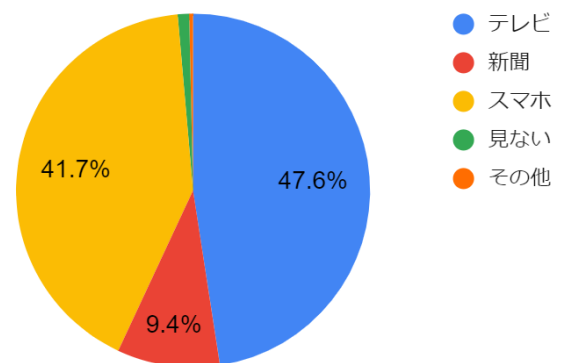
③あなたの家は新聞をとっていますか？

- ・はい
- ・いいえ

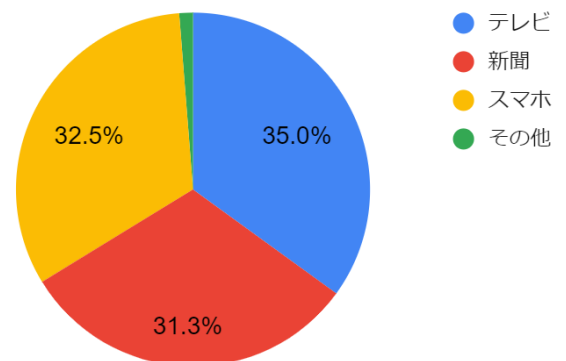
④ ③で「はい」と答えた人で、①で新聞を選択していない人に質問です。

新聞を読まない理由を教えてください。（記述回答）

3 結果

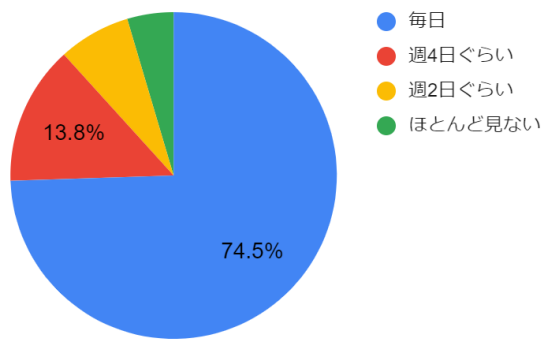


グラフ1.①の質問の結果(高校生)



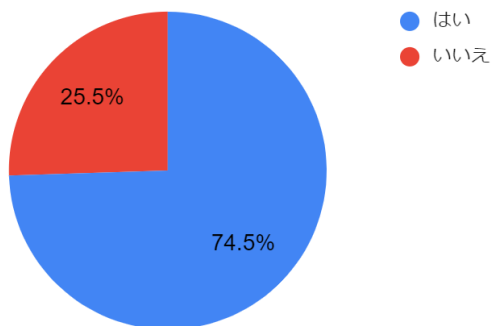
グラフ2.①の質問の結果(先生)

上のグラフ1と2より、共にテレビの割合が最も高く、次いでスマホの割合が高い。しかし、新聞は、1のグラフでは9.4%、2のグラフでは31.3%と大きな違いがある。



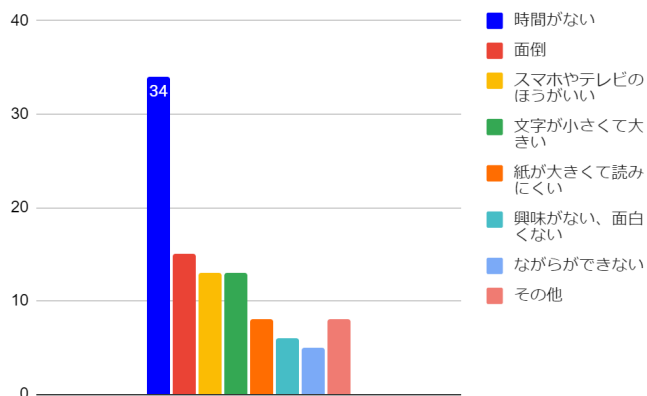
グラフ3.②の質問の結果

ニュースを見る頻度としては、7割の人が毎日と回答しているが、一方でほとんど見ない人もいる。



グラフ4.③の質問の結果

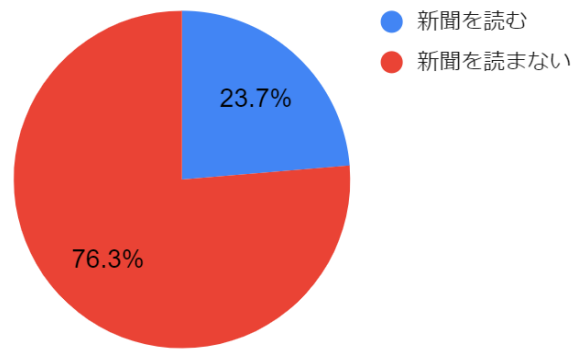
新聞をとっている家庭は七割を超えている。



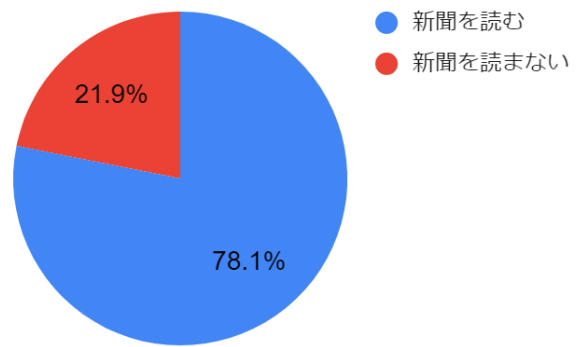
グラフ5.④の質問の結果

5のグラフより、新聞を読まない理由は、「時間がない」と回答した人が圧倒的に多かった。

4 考察



グラフ6 高校生



グラフ7 先生

上記のグラフ6、7は、①の質問の結果と③の質問の結果をもとに、新聞を取っている人が、新聞を読んでいる割合をグラフにしたものである。(上記の通り、グラフ6が高校生、グラフ7が先生のグラフとなっている) グラフ6、7より、高校生と先生では、結果が逆になっている。この理由として、高校生は自分で新聞をとっているのではなく、親や祖父母がとっているだけで、自分たちは、グラフ5の理由により、読まないからだと考える。

新聞は、1 はじめに に書いた通り、たくさんの情報が記載され、その情報を読み解く必要がある。これにはじっくり新聞に向き合う時間が必要になる。しかし、ネットニュースやテレビでは、手軽にかつ別のことをしながら、情報を手に入れることができる。④の質問の結果からもわかる通り、※タイムパフォーマンスが重視される現在の社会では、ネットニュースやテレビが主な情報源となっているのではないかと考える。
※タイムパフォーマンス・・・日本語で「時間対効果」。費やした時間と得られた満足度の相対性のこと。

5 結論

高校生で情報を得る際に新聞を利用する人は少なく、「時間がない」ということが、読まない人の主な共通点である。このことから、現時点で、高校生が情報を得るときの新聞の存在は薄れていると考えられる。

6 今後の展望

今回は、武生高校の生徒と先生方だけの結果なので、生徒や教員だけでなく、一般の社会人等、対象者を増やして得られた結果から研究をしたい。

参考文献

マルク レール(2014) インターネットの登場で、新聞の未来はどうなる？

<https://yumenavi.info/vue/lecture.html?gnkcd=g0069>

23# 2024年8月25日

日本新聞協会(2013) 新聞の公共性と役割

https://www.pressnet.or.jp/keigen/files/shimbun_kou_kyousei_yakuwari.pdf 2024年8月6日

柳澤伸司(2021) 情報をどのように捉え、活用するべきか 部数が減少する新聞の現在とともに考える

https://www.ritsumei.ac.jp/gss/ccs/shinji_yanagisawa

／

2024年8月6日